

当社のお客様本位の業務運営の実施に係る KPI について

フランクリン・テンプルトン・ジャパン株式会社

2021年6月28日更新

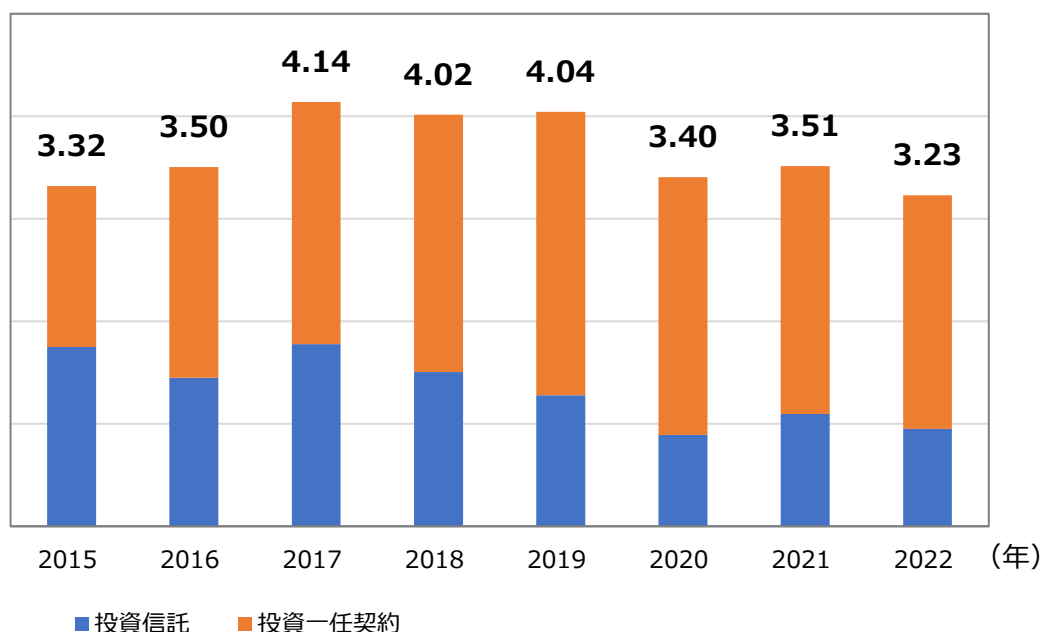
お客様本位の業務運営に係る成果指数（KPI）を掲載いたします。

今後も定期的に公表していくとともに、随時見直しを行います。

【受託資産の分類別残高】

受託資産残高の水準ならびにその安定的な成長は、多くのお客様からのご支持を反映するとともに、会社経営の健全性に直結するものであります。お客様からみて安心して運用を託すことのできる運用機関であり続けるために、重要な成果指数と考えます。

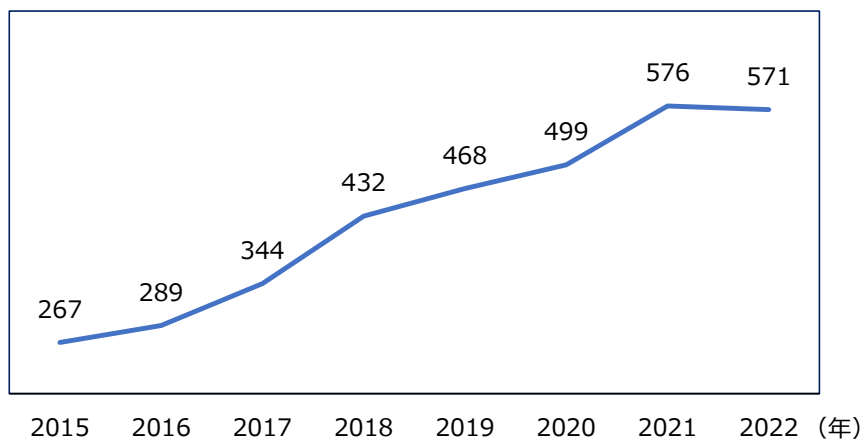
(兆円)



※ 各年3月末時点の残高、2015年～2020年については旧レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社の受託資産残高、2021年については旧レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社および旧フランクリン・テンプルトン・インベストメンツ株式会社の受託資産残高の合計

【累積販社取扱商品数の総数】

当社運用商品の取扱数が拡大することは、投資家にとって当社商品へのアクセスが増えることであり、当社が多くの個人の資産運用に貢献できることにつながります。また取扱販売会社の広がり、それぞれの商品の安定的な資金フローにつながり、既存受益者の利益に資すると考えます。当成果指数が伸びていることは同時に、当社が多くの顧客ニーズに応えていることのバロメーターのひとつになると考えます。

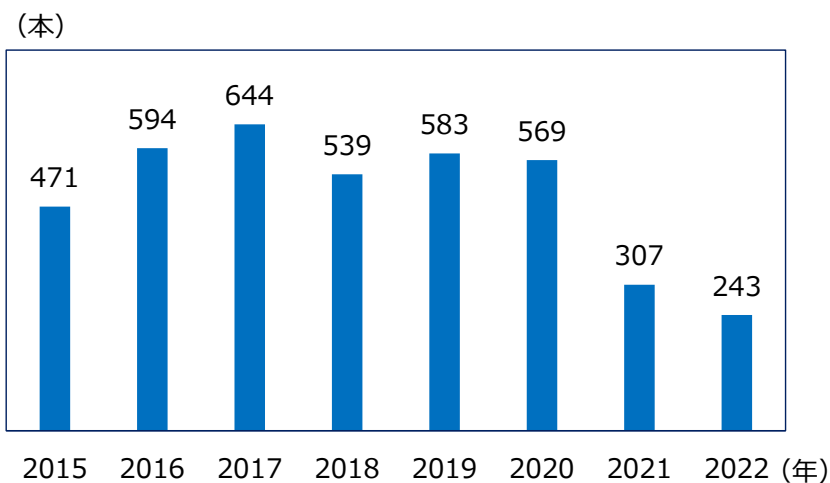


※ 累積販社取扱商品数は、各年3月末時点の各販売会社が取扱っている当社商品数の累計数

※ 2015年～2020年については旧レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社の累積販社取扱商品数、2021年については旧レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社および旧フランクリン・テンプルトン・インベストメント株式会社の累積販社取扱商品数の合計

【情報提供資料等の作成数】

目論見書や運用報告書等の法定書類、販売用資料・月次報告書とは別に、適時、充実した商品・マーケット情報資料を持続的に提供することは、最終投資家の利益に資すると考え、ひとつの成果指数として、情報提供資料の作成数をモニターしています。

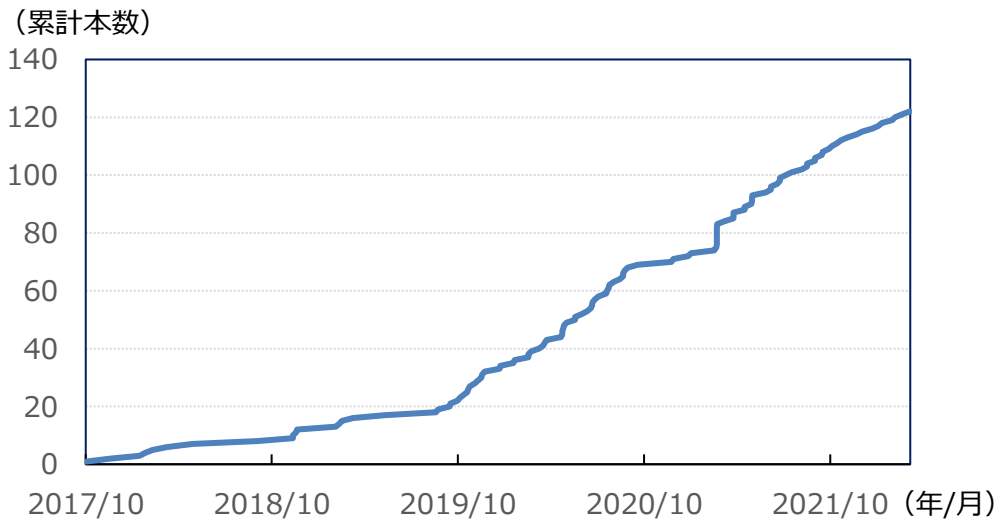


※ 各年は前年4月～当年3月までの期間

【デジタル化の推進 – 投資家向け動画配信件数】

近年、デジタル媒体を通じた情報ニーズに応えるべく、動画の作成・配信を強化しております。

とりわけコロナ禍以降、顧客セミナーや販売会社向け勉強会の実施を困難となる中で、運用や市場環境に関する情報を資料に加えて映像や音声でも入手したいというニーズが一層高まったことから、今後も積極的に提供していく所存です。



※ 2017年9月～2022年3月の期間

以上